

経済・金融フラッシュ

No.08-023 2008/05/12

4月マネー関連～預金通貨が大きく減少、企業の資金繰り悪化の可能性

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 主任研究員 矢嶋 康次

TEL:03-3512-1837 E-mail:yyajima@nli-research.co.jp

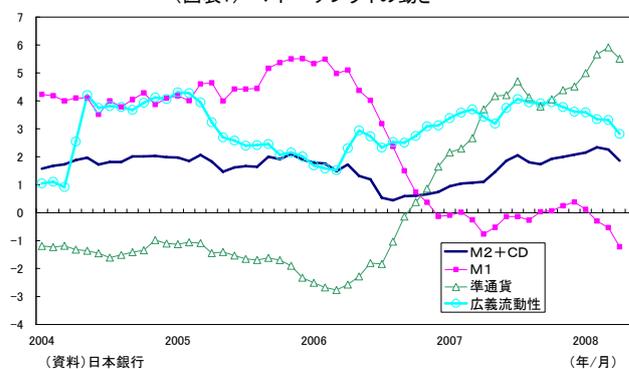
1. マネー：預金通貨が大きく減少、企業の資金繰り悪化の可能性

マネーサプライ統計（5/12日公表）によれば、4月預金通貨が、▲1.7%減と大幅な落ち込みを示したことなどから4月のM2+CDは前年比1.9%、広義流動性は2.8%とともに伸び率が低下した。

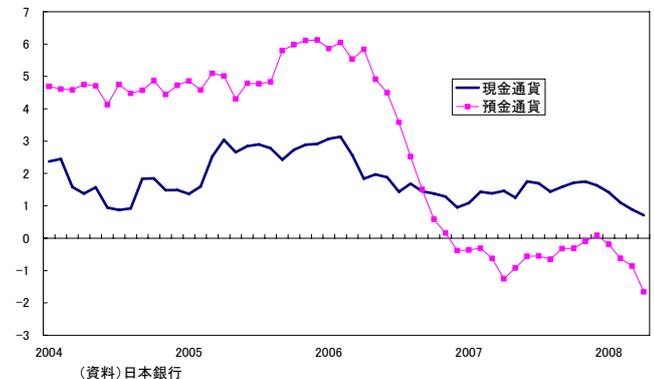
預金通貨の減少は、企業が資金繰り悪化等に伴い預金の取り崩しを行っている可能性が高く今後要注意だ（図表1.2）。

昨年夏場からの投資信託不振、定期預金などの準通貨増加の動きは今月も続いているが、準通貨については、7ヶ月ぶりに前月に比べて伸び率が縮まっている（図表3）。

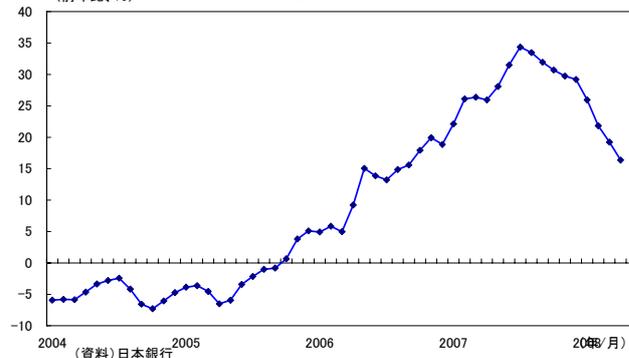
(前年比、%) (図表1) マネーサプライの動き



(前年比、%) (図表2) 現金、預金の動き



(前年比、%) (図表3) 投資信託の動き

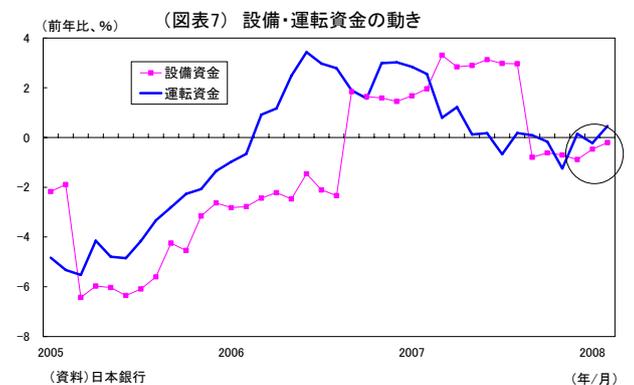
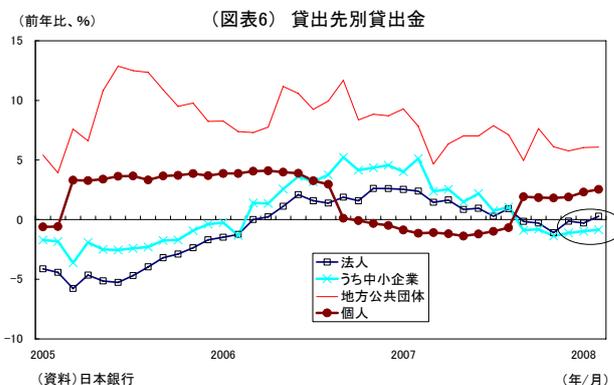
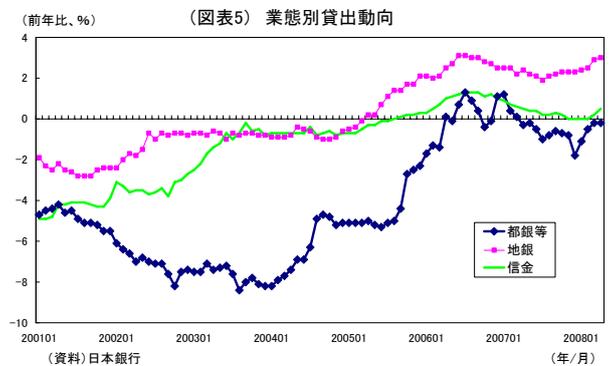
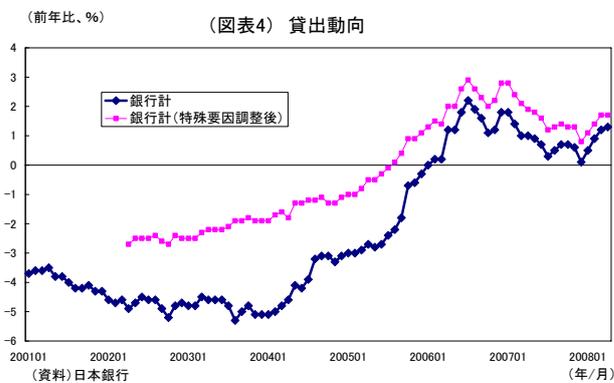


2. 貸出動向：足元運転資金需要増加で貸出伸び率高まる

日本銀行が5月12日に公表した貸出・資金吸収動向等によると、4月の総貸出（平残、銀行・信金計）は前年比1.2%（27カ月連続のプラス）と緩やかな増加を続けている。

業態別では、地銀は同3.0%と比較的高い伸びが続いているが、都銀等は同▲0.2%と13カ月連続で前年比マイナスが続いている。（図表4,5）。

貸出先別貸出金を見ると、地方公共団体、個人向けは堅調を維持しているが、中小企業向けは減少傾向が継続している（図表6）。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)